

【全体討議】

～町産の杉材を利用した地産地消の復興住宅～

- 町産の杉活用についての提案がありました。南三陸町には豊富な杉があるのですから、復興住宅に使うことに大賛成です。
- 木造で低価の復興住宅を提案する事業者もいるそうなので、町有林を安く払い下げて、より安価に住宅を提供することも考えられます。
- 森林組合では、木造100%の仮設住宅を町内に作っています。この取り組みを復興住宅の建設につなげていければと思います。地元材のほか、地元の大工、技術の活用にもなります。



【会議のまとめ】宮城大学 風見 正三 教授

～前回よりも具体化が進みました。次回にはシンボルプロジェクトに昇華へ～



Aグループは非常に広いテーマをよく3つにまとめられたと思います。安心安全をどうするかという観点から、道路を震災時に人を救ったということで「命を守ロード」になりました。産業復興としては、第一次産業を中心という話でした。

Bグループでは、色々な産業を横串にしている観光があり、それを環境とコミュニティが支えているのが素晴らしいです。地域の資源を活かして、世界に発信していくという姿勢です。

Cグループは復興という言葉を実践的に考えて、資金まで考えたのが素晴らしいです。個別にでた意見としては、地元の資産を活用した住宅建設の話や、子どもたちの心のケア、ユニバーサルデザインの推進、などもあり、視点が広がりました。

今回は、これらをプロジェクトとしてさらに具体的に構想してみましよう。皆さんがこうなって欲しいと思う町にするには、現実的にどういうプロジェクトが必要なのか、それこそがシンボルプロジェクトです。南三陸はこういう町になるだという思いを表現していただきたいと思います。それを町にくみ取ってもらい、将来は自分たちが参画することになるようにしましよう。

次回 第3回震災復興町民会議の予定

日時: 8月10日(水)14:00～16:30 場所: 入谷公民館

第2回
活動
報告

第2回
活動
報告

南三陸町震災復興町民会議
かわら版(第二号)

～復興への具体的な取組アイデアを抽出～

第2回目の会議では、前回の話し合いの結果を振り返り、さらにアイデアを掘り下げて、町と地域の協働による復興事業を抽出しました。Aグループは「一次産業と観光で復興」、Bグループは「南三(みなさん)チャレンジ」、Cグループは「住まい、産業、復興資金」と、各グループから特色のある事業の提案がありました。

今後は、これらの復興事業の実現に向けた戦略を考えながら、南三陸町の復興の象徴となるようなシンボルプロジェクトを組み立てていきます。

プログラム

日時 平成23年7月22日(金) 午後2時～4時30分
場所 南三陸町役場仮庁舎 会議室

14:00	1 開会
	2 会長挨拶
	3 前回の振り返り
	4 本日の進め方
	5 グループ討議
	6 グループごとの結果発表
	7 全体討議 ・グループ別振り返り ・復興事業について
	8 会長によるコメント
16:00	9 閉会



会長挨拶:小野寺 寛 氏 ～しっかりした議論を進める～

計画づくりは、策定する過程が大切です。どのような議論をしたのかは、結果として、出来あがった計画の実行性を左右します。

町民会議は、これからの新しい南三陸町づくりに関する提言をまとめるということで、あまりにも重大な役目ですが、出来る限りの力を発揮し、町民の声を代弁していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



【全体進行】宮城大学 永松 栄 教授



今回は、南三陸町が抱える課題を中心に、意見やその解決方法等について話し合ってもらいました。

今日は、類似の意見等を整理して方向性を見出してください。どのような方向で復興事業を進めたらよいか、皆さんの意見をまとめ、次回の会議で予定しているシンボルプロジェクト企画に繋げていきましょう。

鈴木 孝男 助教

復興事業のアイデアをたくさん提案してください。また、どこに力を入れて復興すべきか、さらに話し合いを深めてください。



Aグループ

～絆=過去から未来へ、一次産業と観光で復興！～



- 一次産業を盛り上げていこうということでキャッチフレーズを、「立ち上げよう一次産業、そして観光」にしました。復興のためには、一次産業の再興しかないというのが主張です。自然豊かな町だからこそ、それが一番と考えました。今回の震災で、多くの財産を失いましたが、豊かな海は残りました。豊かな海から町を発展したい。宿泊施設や自然環境活用センターなどの施設の活用も考えられます。また、農家、特に菊農家を支援し、復活を図ることを考えました。南三陸町には、「黄金郷」という菊のブランドがあります
- 「絆=過去から未来へ」というキャッチフレーズにしました。仮設住宅での住民間のコミュニケーションが、当面のまちづくりの支えになると考えます。また、子どもたちが集まれるようなまちにしたいと考えました。
- 今回の震災で、道路の大切さがよくわかったので、命を守る道路、という意味で、「命を守るロード」としました。三陸道をいち早く開通させるだけでなく、国道45号、398号も含めて、道路を中心としたまちづくりが重要です。高台に道路をつくり、そこを中心にしてまちづくりを進めることで、安全で、安心して住める町をつくりたいと考えます。

Bグループ

～南三(みなさん)チャレンジ～

- 南三陸町は、漁業、農業、林業などの一次産業が盛んですが、それらと結び付けた「観光」を考えました。漁業の体験学習や、グリーンツーリズムなどの今まで実施してきた事業のほか、さらに新しいアイデアを加えて、魅力ある事業とし、多くの人に南三陸に来てもらうようにしたいと考えます。また、働く場所の創出も期待できます。
- ほとんど浸水していない入谷地区で、週末農業などの農業に関する事業展開を考えました。最近、後継者不足から休耕田も多く、農業の新しいスタイルを導入することにより、お金にもなり、人口流入にもつながる事業を考えたいと思います。
- あまり手が入っていない荒れた山があるので、これを再生すること。南三陸の杉は美人杉(ビジネスギ)と呼ばれており、品質も高いので、ブランド化が期待できます。
- これまでのやり方だけでなく、新しい考えを取り入れ、復興を進めることが大切です。今、南三陸町は世界から注目されていますが、これを利用して世界に発信していくべきです。新しいものに挑戦していかなければならない。キャッチフレーズは「南三(みなさん)チャレンジ」としました。



Cグループ

～世界一安全なまち、住まい・産業・復興資金～



- 命を守るのは計画書ではなく、計画をつくりあげていく過程が大事であり、一人ひとりが自分で自分の命を守るという意識をもつことが大事なのだと思います。津波で世界一有名になってしまったので、今度は「世界一安全な町」にしたいと思っています。
- 人が住むには、衣食住が必要です。町は公営住宅の整備をすべきだと思います。低所得の人も入れるし、高齢者には住みやすい平屋の建物があると良いでしょう。
- 職住分離の考えが出ていますが、水産業の職場などでは多少の危険があっても避難路をつくって逃げられるようにしてもらいたい。やはり、水産業を考えた地域づくりをすべきです。
- これからの南三陸町を考えると、人口が減少し、高齢化が進むと予想されます。南三陸の水を飲んで、南三陸の豊の上で死にたいという人が大勢いるのではないかと思います。そのため、医療や保健の仕組みを行政だけでなく、ボランティア、契約会などが協力して作っていくことが大事でしょう。
- 今回の震災を見て、南三陸を支援したいという有難い方々がたくさんおります。それには、南三陸の漁師、町民の一人ひとりが何をやりたいのかを発信することが大事。こちらがまとまって、集落なり地区なり、町全体なりでやりたいことを発信すれば、それを応援し、後押ししてくださる方もいるはずですよ。

復興への取り組み
(提案事業のタイトル)

命を守ロード

- 道路と街を一体的に整備すること
- 道路は出来るだけ広く
- 道路を活かしたまちづくり
- 道路整備イコール商業・工業発展につながる
→三陸道の要望を強く
- 商店や銀行などがあり、生活がしやすい町
- 海が見えるまち
(堤防ですべての波を防ぐのではなく)
- 第一次産業(水産業)等
これまでの殻を取って観光に転換していくことも大切
- 道路(必要性、重要性)
情報・物資・避難
- 堤防に代わる高い道路整備も考える
- 鉄道の走る町
通学(高校生)
- 幹線だけでなくネットワークで
(含、私道・林道)

概要
(何を、誰が、どのように)

(資料) 各グループの話し合い結果

安心・安全な町づくり

災害に強いまちづくり

災害にあわない住宅地(高台移転)をこれまでのコミュニティを守りながら作る

高台でも海がみえる

災害に強い安心して住める町

津波の予想水高が違ったのではないかな? もっと正確な気象発表が必要だった
→正確な情報(GPS)

この度の津波で浸水した土地は、盛土等をし、公園にでもしてほしい

安全な町、安全に住める町にするために「山の造成」し、宅地にする。予算を国に補助してもらおう

山を造成し、高台に家を建て、津波の心配をせずごしたい。

災害に強い安心して住める町にしてほしい

復興への取り組み
(提案事業のタイトル)

絆

過去から未来へ

概要
(何を、誰が、どのように)

仮設住宅内の自治会の必要性(極端なプライバシーの防止)
地区別での仮設住宅など工夫

旧地域ごとに住み、以前のように楽しく安心して過ごしたい

集会所をつくる基準(人数)などを変える工夫が必要
今後地区の範囲を見直してほしい...

仮設住宅を地域ごとにまとめて以前のようなコミュニティに。まずは手がけてみる必要性から

子どもたちがのびのび成長できる町

災害に強い町づくり
歴史、特徴、コミュニティ

南三陸町は6年目の新しい町。歴史を大切に作る町づくり

津波で残った文化財、伝統芸能などの保護

新しい特徴のある町
統一感のある町づくり

南三陸町から発進するまちづくり

区長会同様の組織が仮設住宅直に必要ではないか?

地区と仮設住宅に隔たりがある
→行政から自治会や仮設住宅からの代表創設の依頼がほしい

まわり旧知の人

仮設住宅(環境のちがう)ではなく、これまで通りのコミュニティなどの公営住宅などを望む

個々の町づくりへの意識を高める意味でも仮設住宅範囲内の「女性の語る場所」を設けて

戻ってくるような働く場所、公共施設

子どもから大人までともに考え行動できる町

新しい特徴のある町、統一感のある町づくり

概要
(何を、誰が、どのように)

働く場所がある町

自立=雇用
互いにコミュニティが図られる

工場、商店街、加工場
早期の創業

産業、漁業
町民多くの方が海に親しみ協力し合うなりわい

観光の町として進む地場産品(商品・質のものづくり)
自然・環境の売り込み

若者が定住できる、働ける場を作してほしい

公共の仕事について臨時採用
→正採用に

浸水の恐れのない土地を準備することが、商業復活に必要
→住宅地確保との関わりもある

農業・漁業・商業・サービス・観光が一同に話し合える場

カキ小屋 来年度の出店など

森とのつながり(カキ殻の肥料利用)

仮設事務所・向上を整備する(国・県の制度を活用する)

水キエ栽培など、土地を使わない園芸などの推進

漁業(カキ・ホヤ)の漁業体験などの出来ることから再生

志津川の「菊」(黄金のさど)の拡大は出来ないか? 体験学習などいまで出来ることから始めたいのではないかな

大自然を活かす!!

立ち上げよう
第一次産業!!

町が観光再生、産業再生のための補助助成を望む
→ノウハウを活かす行政を

そして観光

一次産業

立ち上げよう

復興への取り組み
(提案事業のタイトル)

Bグループ

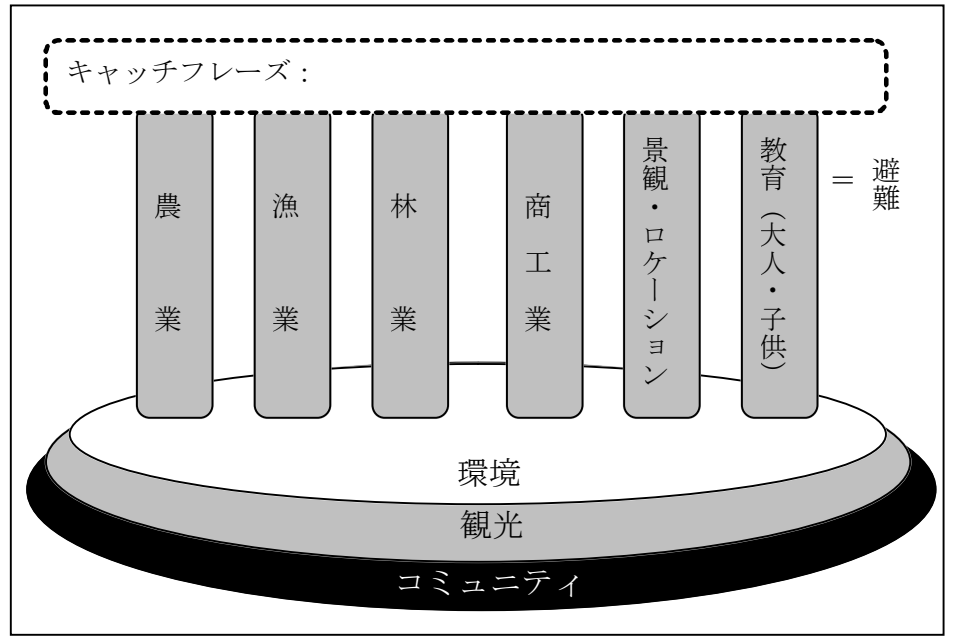
**復興への取り組み
(提案事業のタイトル)**

**概要
(何を、誰が、どのように)**

観光	普段は交流施設 ⇒災害時は避難所	体験型教育、交流の場を 作る (海が見える場所)	ロッジのように少人数 の施設を複数作る	交流から 仕事生まれる	雇用を生む 仕組みを作る		
	低地から避難所に移動で きる経路を確保する	通常は海近くで観光 ⇒避難所にもなる	休耕田・浸水農地を 観光資源にする	雇用を含めた復興計画 産業の柱を「観光」に	海見える町が観光資源 堤防を高くしない方がいいのではないか		
	農家民泊 食事と宿泊の提供 労働は来訪者が提供	農村景観も 観光資源	農業体験+民泊も 観光に	農家としても 観光に参画する	産業の柱は観光 農/漁/商	農家の空き部屋を 宿泊用として貸し出す	
農業	浸水した農地は 国が買い上げ、国定 公園にすればよい	平地は人が集ま れる運動公園 浸水区域の活用	平場の活用法 運動公園 (農地再生ではなく)	農地は国が買い上げ 集約化⇒活用 土地の開放を! (意識を変える)	農地の再生は必要ない 後継者不足のため		
	入谷地区で新しい農業を! 週末農業など	一次産業のあり方 農業は入谷地区で 可能	週末農業の受け入 れ (入谷地区など)	農地の再生では なく、ほかに有 効利用を!			
林業	手入れされない杉林 ⇒バイオマスに (雇用創出を図る)	林業の衰退は木材価 値の下落が原因 (かつての1/3)	民有林の団地化 を進める 林道整備も	地元の工務店は今のニー ズにあっていない⇒ハウ スメーカー	志津川の杉で家を 建てるハウスメ ーカーが仙台にある	ブランド化 美人木 (すぎ) きめが細くピンク色	地元の木材で 住宅を再建す る
	水産加工業は良い が、その他の物販は 苦戦していた	漁業者は権利だけでなく義務 を果たすべき。海をきれいに して資源を守るべき	漁業は新しい人を入れて、 時代にあった環境に配慮 した物にしてほしい				
商業	車社会に合った 商売、商業が必要	車社会を前提に したまちづくり 商業地作りを!	買い物できる場 所は地元ほし い	町の小売店は大 規模店とちがっ たメリットを			
	若い人が出来る ような商業を! 商圏の復活!	志津川商圏がな くなって10年 以上経っている	商業も後継者不足、仮 設商店街にも新しい活 力が必要	地元合った 商業を!			
教育	海沿いで憩う、遊ぶ、泊る、働く場 を作るためには避難、教育の実施が 前提						
環境	浸水区域にソー ラー発電						
コミュニティ (きずな)	町外に出て行った人 (若者)が戻ってき たくなるような復興	外から人を入れるだけでなく、人が 戻って来なくなる町にしたい。町民 運動会もなくなった	町民運動会の復 活も。地域の絆 を強めたい。				
	人との関係が薄くなっ た。ヨソ者を受け入れる 人間関係の濃い町に	開放的だけど も、地域のまと まりもある町。	地域に無関心な人 が多い。運動会もな くなっていった	帰属意識を 持てる町。			

みなさん
南三

チャレンジ 挑戦 復興のサンプル・モデル



(資料) 各グループの話し合い結果

(資料) 各グループの話し合いで出た意見

各世代いろいろな人が安心
して生活できる町

